

心音コミュニケーション：「Qun²Comm!

心音と写真を融合した、新しいコミュニケーション体験価値サービス

府金 恭平[†] 岡崎 博樹[‡] 上林 憲行[‡]
 東京工科大学 メディア学部[†] 手仕事工房[‡]

1. はじめに

近年スマートフォンの普及により写真は日常的に使用され、ありふれたものになった。そこで、本研究では身体的・生理的に表れた感情情報を写真に融合し、その人にとってかけがえのない大切な写真を残すことができるのではないかと考えた。先行調査を行ったところ写真と心音を用いた例は無く、写真と心音の融合により、相手の気持ちを感じることでできる「ココロネ写真」を作るユーザー体験価値サービス「Qun²comm!」[1]の開発を行った。

2. サービスデザイン

2.1 サービスコンセプト

Qun²comm!では「親密な関係であるパートナーの写真を持ちと一緒に感じる」「写真に心音を与え、大切な時の一瞬を切り取ったココロネ写真として写真自体の価値を引き上げる」をサービスコンセプトとする。大切なパートナーの写真を見る時、もう一つの価値として心音と一緒に感じる感情体験をもたらすことができる。

ユーザーターゲットとしては恋人同士、親子を対象とし、外出先での景色の綺麗な場所、お気に入りの場所などでの使用により、その時の心音を記録として残し、写真をより印象的に感じる事ができる。

2.2 サービス特徴

Qun²comm!の特徴は以下の2つである。

- 生理的情報として心音を選択
 従来では、心拍数をグラフ化したものを利用してきたものが多かったが Qun²comm!では感情情報を表現する生理的情報として心臓の実際の音、すなわち心音を用いている。
- 親密な関係のパートナーと利用する
 心音を録音するという親密な関係を前提としたサービスである。写真を撮る時に心音を録音することで写真を撮った後、大切なパートナーと一緒にココロネ写真を楽しんだり、帰ってから一人で楽しんだりする事でより印象的に感情体験価値を得る事ができる。

Qun²comm!は、パートナーの写真に心音を融合

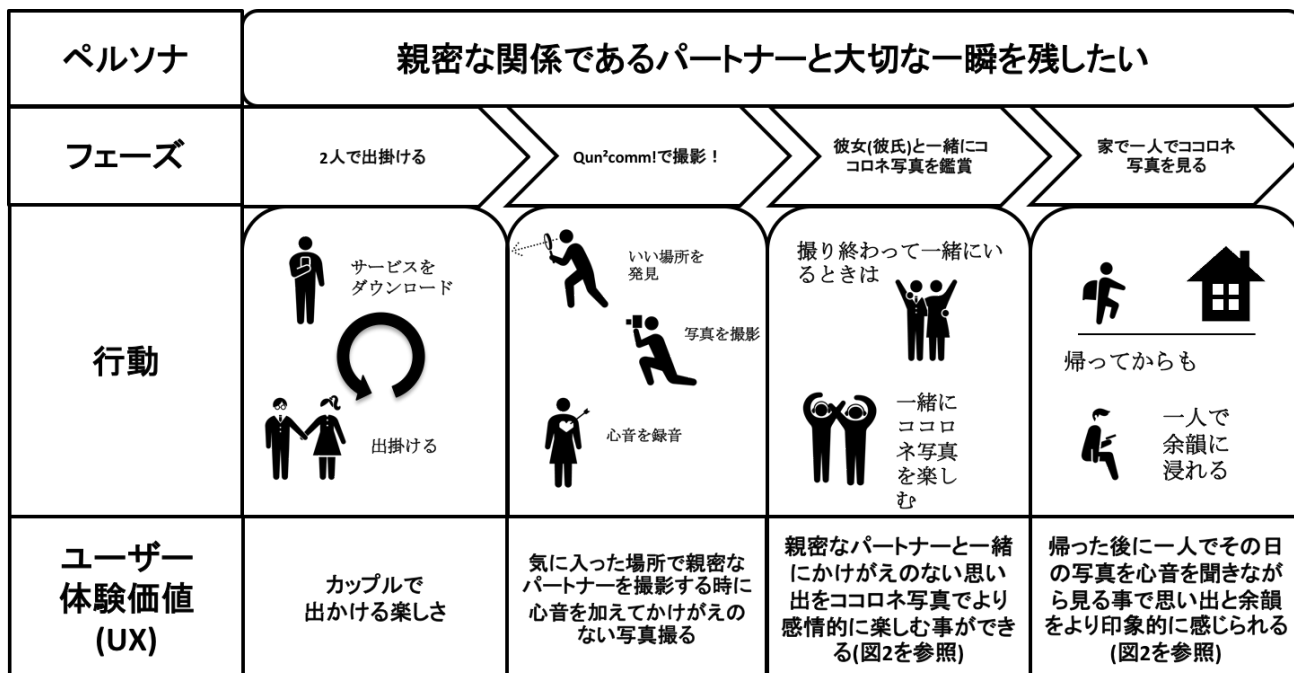


図 1 心音コミュニケーション「Qun²comm!」カスタマージャーニーマップ

Qun²comm! : A multimodal user experience service using the photo with heart sounds as the emotion information

Kyohei FUGANE[†], Hiroki Okazaki[‡], Noriyuki Kamibayashi [‡]

[†] School of Media Science, Tokyo University of Technology, [‡]Teshigoto Lab.

し、その時の場面の感情を切り取り一緒に感じる
ことのできる感情体験価値サービスである。

Qun²comm!のサービス形態は、スマートフォン
アプリケーションとし、スマートフォンに備わる
カメラ機能とマイク機能を用いる。

3. プロトタイプ

Qun²comm!の開発を行うに当たって、アリアル
社提供の Monaca(クラウド型 IDE[2])を利用して
プロトタイプの開発を行った。

図 2 はサービスの構成を表した図である。カッ
プルで外出した際に、Qun²comm!を利用する事
でお互いにココロネ写真を撮り合う事ができる。
サービス構成では、ユーザーが Qun²comm!
の登録画面から相手の写真を撮影、心音マイクをスマートフォンに接続し、心音を録音する。撮った写真、録音した心音を確認し、保存すると使用しているスマートフォン端末のローカルストレージに写真と心音が保存される。今までに撮ったココロネ写真は Qun²comm!内の専用フォトギャラリーに全て保存され、サムネイルで表示されているココロネ写真をタップするとローカルストレージに保存されている写真と心音を同時に表示、再生する事ができる。保存したココロネ写真は、いつでもフォトギャラリーから呼び出す事ができ、その場で大切なパートナーと写真を見ながら心音を聞く事で

普通の写真に比べより感情的な思い出を楽しむ
事ができる。

また、デートから帰った後も 1 人でココロネ写
真を心音を一緒に聞きながら見る事でその日の
思い出の余韻をより印象的に感じ振り返りな
がら楽しむことができる。

プロトタイプ開発では写真の撮影、心音の録音、
写真と心音の複数保存、写真と心音の同時再生の
機能を実装することができた。

4. おわりに

Qun²comm!では、写真と生理的情報「心音」を融
合させた相手の心音を写真に付加価値として与
えるマルチモーダルコミュニケーションサービ
ス「Qun²comm!」の開発を行った。

今後は、無線でシャッターと同時に心音を録音
する別のデバイスの開発とクラウド化すること
で遠く離れた場所の人にもココロネ写真を他ユ
ーザーに届けるといったサービスの拡大を今後
の展望として進めていきたい。

参考文献

- 1) 「Hacklog Qun²comm!」
<http://hacklog.jp/works/4242>
- 2) 「Monaca」
<https://ja.monaca.io>

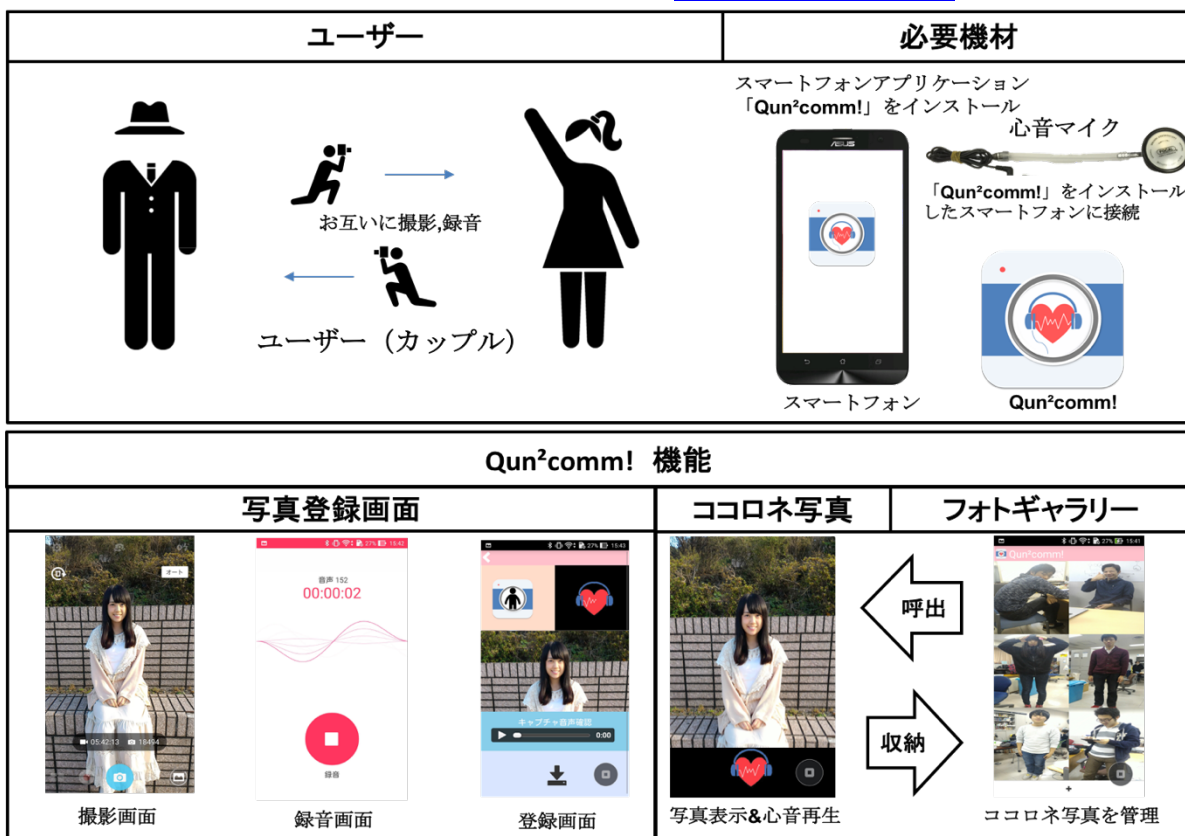


図 2 心音コミュニケーション「Qun²comm!」プロトタイプ構成図